

YAMAHA ELECTONE

E-30

取扱説明書

ヤマハエレクトーンE-30は、ヤマハが、
多年にわたる楽器づくりの技術と
最新の電子技術の粋を集めて完成した
コンソール型の、新タイプのエレクトーンです。
そのユニークな音づくりのシステムから生まれる、
「鮮明な音」、「自然な音のひろがり」は
きっと、みなさまにご満足いただけるものと存じます。
本書では、おてもとのエレクトーンの機能および
取り扱い方法などについて説明いたしております。
あらかじめご一読のうえ、美しい音色を心ゆくまでお楽しみください。

- 新しい音の世界をおとどけます ●1
- 基本的な音づくりの手順 ●4
- 上鍵盤の音づくり ●6
- 下鍵盤・ペダル鍵盤の音づくり ●7
- 音色プリセットピストン ●8
- 効果を加える ●9
- 音量コントロール・他 ●12
- オートリズム ●13
- オートベース/コード ●14
- オートアルペジオ ●16
- 付属端子・音のエチケッ ●18
- 楽器のお手入れ法 ●19
- 次の現象は故障ではありません ●20
- 保証とアフターサービス ●22
- 仕様と音域表 ●24

E-30 新しい音の世界をおとどけます。

ヤマハエレクトーンE-30の魅力は、なんといっても、「豊かで鮮明、自然な音のひろがり」にあると言えます。トーンレバーのセットでつくる音色はいずれも、純度の高い透明な響きをもち、また、上鍵盤のトーンセクターを押して得られる音(E-30ではこれをオーケストラ系音色と言います)は、私たちがいつも耳にしている楽器と同じような、豊かで自然な音のひろがりをもっています。また、エレクトーンの新しいファン・ブロックとして〈オートアルペジオ〉が加わったことも見逃せません。

つまり、あなたが「音づくり」に参加する楽しみをより大きくしたのが……この、ヤマハエレクトーンE-30なのです。

上鍵盤トーンレバー

- ブリリアンス
- アタックレングス
- アタック4'
- アタック2 2/3'
- フルート16'
- フルート8'
- フルート5 1/4'
- フルート4'
- フルート2 2/3'
- フルート2'
- ティンパニ8'
- バスーン16'
- フラス8'
- オーボエ8'
- クララ8'
- ストリング8'
- ストリング4'
- アタック7ワウワウ
- リビートスピード
- ブライト
- アップパー
- アップパー-オーケストラボリューム
- フルアンサンブル
- ピアノ
- ハーモニウム
- ピアノ

オートリズム

- スタートスイッチ
- シンクロスタートスイッチ
- リズムセクター
- マニュアルバランス
- アップパーサステイン
- リバーブ
- テンポコントロール
- オートリズムボリューム
- ローサステイン
- ペダルサステイン
- オートリズムバランス
- リズムストップ
- ダンパー
- グライド

トレモロ・コーラス

- コーラス
- トレモロ
- ロー
- アップパー
- アップパー&ロー フルード
- ノーマル

オートベースコード

- シングルフィンガーコード
- フィンガードコード
- カスタム
- コンスタント
- メモリー
- ベースバリエーションノーマル
- ベースバリエーション1
- ベースバリエーション2

音色ブ

アップープリセット
 下鍵盤トーンレバー
 ペダル鍵盤トーンレバー
 シコード
 アップコード
 ハワイアンギター
 チャイム
 ビブラフォン
 タッチビブラート
 テイレイビブラート
 ビブラートデフス
 ビブラートスピード
 フルード8
 フルード4
 フルード2
 フルード2
 フルード2
 ディアソーン8 (ABC/ピアノI)
 ホルン8 (ABC/ピアノII)
 チェロ8 (ABC/ギター)
 チェロ4 (ABC/ハーブシコード)
 バス16
 バス8
 チューバ16
 ストリングバス
 バスギター
 マスターボリューム



アップーサステイン
 ローサステイン
 アップーピストンキャンセル
 アップーバーカッシュディケイ
 レスポンス
 トレモロスピード

オクターブ
 ビート
 スタート
 アップ・ターン
 フットスイッチストップ

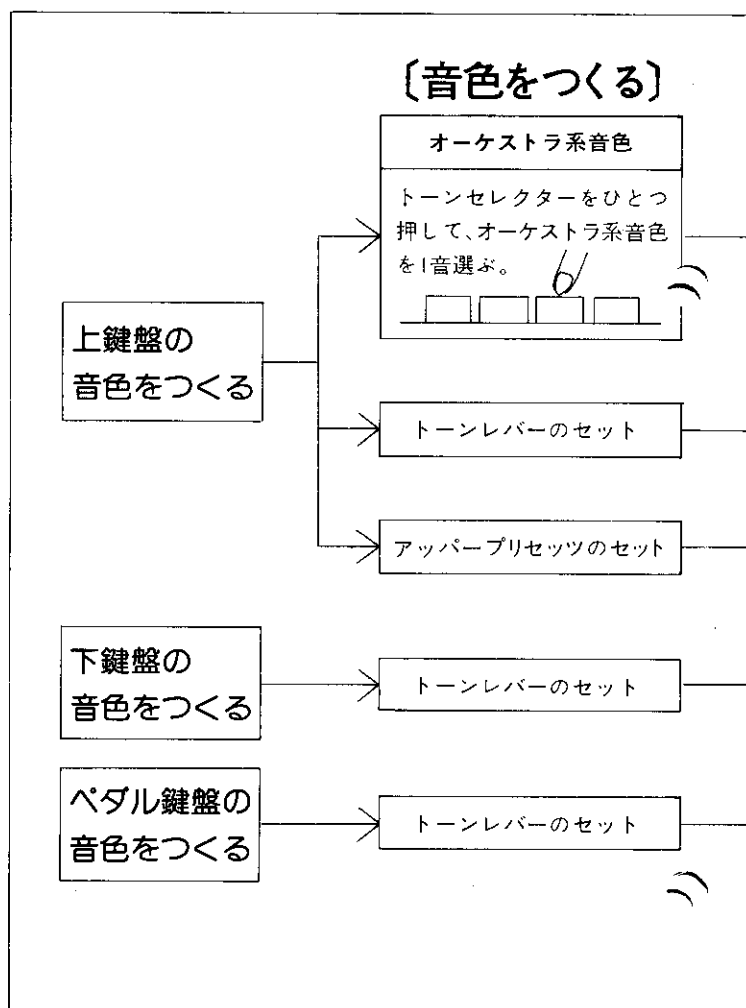
オートアルペジオ

電源スイッチ

音色プリセットキャンセル
 音色プリセットピストン③
 音色プリセットピストン②
 音色プリセットピストン①

基本的な音づくりの手順

上鍵盤に、ボタン式のトーンセクターが加わったことにご注目ください。このトーンセクターで、各楽器音の特長を十分にいかした〈オーケストラ系音色〉を得ることができます。このオーケストラ系音色は、そのうちの一音を選んで上鍵盤の音としてもよく、また、上鍵盤の他のトーンレバーや、アッパープリセットの音色とミキシングさせることもできます。



〔効果を加える〕

より楽しい演奏のために

好みにミキシングする

- ブライト
- リピートスピード
- アタックワウワウ
- アタックレンジス
- アッパー・パーカッションディケイ
- グライド
- ダンパー
- ビブラート
- サステイン
- トレモロ/コーラス
- レスポンス
- ブリリアンス

オートリズムで
曲想にあつたリズムを
つける

オートベース/コードで
自動伴奏にする

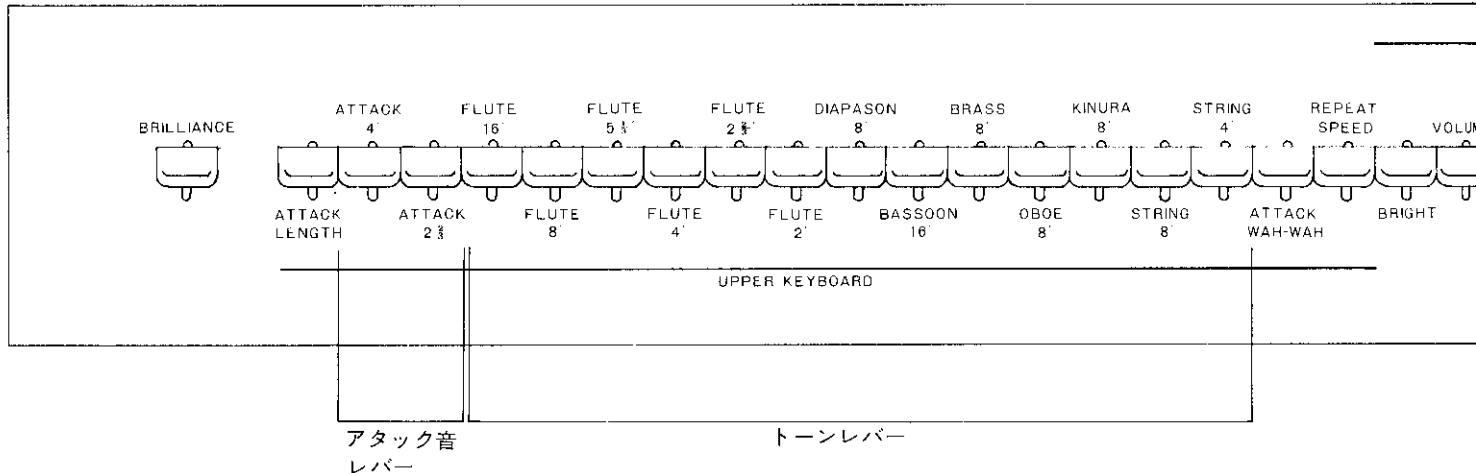
オートアルペジオで
下鍵盤の音を
アルペジオ効果にかえる

●上鍵盤の音色は、音色プリセットピストン①②③でセットすることもできます。

音色をつくる

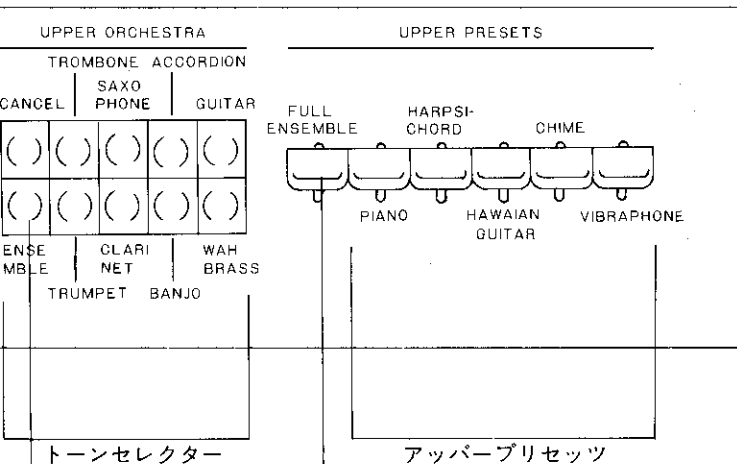
上鍵盤の音づくり

上鍵盤の音色づくりのための機能として、トーンレバー、トーンセクター、アッパープリセット、アタック音レバーなどがあります。それぞれの位置をよく確認してください。上鍵盤の音色は、これらを単独で、あるいは好みに応じてミキシングすることによってつくります。



トーンセクターについて

トーンセクターにはぜんぶで8つのボタンがあります。このうちから1音（1楽器）を選んでボタンを押し、音色のセットをします。ボタンを同時に2個以上押した場合は、右側（そして右下の）のボタンが自動的にセットされます。また、このようにしてボタンをセットしたあと、さらに、左下の黒いボタンENSEMBLE（アンサンブル）を押すと、このトーンセクターの音色と、左側のトーンレバーおよびアタック音等の音色をミキシングすることができます。左上の黒いボタンCANCELは、トーンセクターの音色をぜんぶキャンセルするためのものです。このトーンセクターの音量は、ボタン左のVOLUMEレバーでコントロールします。



アンサンブルのボタンを押すと、トーンセレクターの音色と、トーンレバーおよびアタック音等の音色をミキシングすることができます。

フルアンサンブルのレバーを入れると、アッパープリセット音と、トーンセレクター、トーンレバーおよびアタック音等の音をミキシングすることができます。

トーンレバーについて

トーンレバーは、下に押し下げるほど、その音量が大きくなります。また、いくつかを組み合わせると好みの音色にすることができます。とくにE-30には、新しく個性的な音、FLUTE 5 $\frac{1}{2}$ ' が加わりました。

●FLUTE 5 $\frac{1}{2}$ ' を加えた音の構成の例。

フルート16' + 8' + 5 $\frac{1}{2}$ ' + アタック音2 $\frac{2}{3}$ ' で、歯切れのいいジャズオルガンの音に。

アッパープリセットについて

アッパープリセットレバーはぜんぶで5つあります。レバーは、このうちのひとつだけを選んでセットします。(同時にふたつ以上入れた場合は、右側のレバーの音色が自動的にセットされます。)このアッパープリセットのレバーがひとつでも入っていると、トーンセレクターおよびトーンレバーの音色はキャンセルされます。これらの音色とミキシングしたい場合は、アッパープリセット左側のFULL ENSEMBLEレバーを入れます。

下鍵盤の音づくり

下鍵盤の音は、下鍵盤用の8つのトーンレバーを組み合わせることでつくります。このうち、右側の4つのレバーは下鍵盤の音としてDIAPASON、HORN、CELLO(8'・4')となっていますがオートベースコード演奏をするときには、自動的にPIANO I・II、GUITAR、HARPSICHORDの音色に切りかわります。

(14ページ参照)

ペダル鍵盤の音づくり

ペダル鍵盤用の5つのトーンレバーを組み合わせると音色をつくれます。

NOTE

●上鍵盤の各音色は、FULL ENSEMBLEレバーおよびENSEMBLEボタンを入れていないときは、次のようにその優先順序が決まっています。(＜優先)

トーンレバー＜トーンセレクター＜アッパープリセット

●音色プリセットピストン①②③のどれかが押されていると、上鍵盤の音はプリセットピストンの音色に変わります。

音色プリセットピストン

音色プリセットピストン(①②③)には、ピストン別に、あらかじめ決められた上鍵盤の音色がプリセットされています。つまり、ピストンをひとつ選んで押すことによって、そのピストンにプリセットされた上鍵盤の音色でエレクトーン演奏が楽しめるわけです。また、この音色プリセットで演奏するとき、あらかじめ、UPPER PRESET CANCELのタブレットを押しておく、演奏中、ニーレバーの操作で上鍵盤のプリセット音を部分的にキャンセルすることができます。つまり、プリセット音とコントロールパネルの音をすばやく切りかえて交互に演奏することができるわけです。プリセットピストンのいちばん右側にあるCのピストンは、音色プリセットピストン(①②③)をキャンセルするためのものです。

プリセットピストンの音色

- ピストン①・アタックのきいたジャズオルガン的な音色。

音の構成
〔フルート：16'、8'、5 $\frac{1}{3}$ '〕
アタック：2 $\frac{3}{4}$ '

- ピストン②・フルートアンサンブル的な音色

音の構成
〔フルート：16'、8'、4'、2'〕

- ピストン③・奥行きのあるフルオルガン的な音色

音の構成
〔フルート：16'、8'、4'、2'〕
バスーン16'、キヌラ8'、ストリング8'〕

NOTE

●音色プリセットピストンを押しているときにかけることのできる効果は、ビブラート、グライド、リピートスピード、ニーレバー、エクスプレッションペダル、オートベース/コード、トレモロです。

効果を加える

ビブラート

音をこきざみに震わせる効果で、レバーの操作によって次の3種類のビブラートをつくりだすことができます。

① ノーマルビブラート(上鍵盤・下鍵盤・ペダル鍵盤)

普通のビブラート効果です。かけかたは、DEPTHレバーでビブラートの深さを、SPEEDレバーでビブラートの速さをそれぞれコントロールします。

② デイレイビブラート(上鍵盤のみ)

デイレイ(Delay)ビブラートとは、鍵盤を押してからある時間遅れてビブラートがかかる効果をいいます。使いかたとしては、上鍵盤のオーケストラ系音色のトランペットなどにかけて、その楽器特有の微妙な音の響きをつくりだすのもひとつの方法です。デイレイビブラートのかけかたは次のとおりです。

●まずDELAYレバーを入れます。

DELAYレバーは、ビブラートがかかるまでの遅れ時間をコントロールするレバーです。また、このレバーを入れると同時にビブラートの深さも一定にセットされます。

●DEPTHレバーでさらに深いビブラートが得られます。

DELAYレバーを入れただけの状態よりもビブラートの深さを増したいときは、このレバーでコントロールします。ただしこの場合は、ビブラートの深さをDELAYレバーのときよりも大きくするわけですから、レバーを $\frac{3}{4}$ 以上に入れてください。

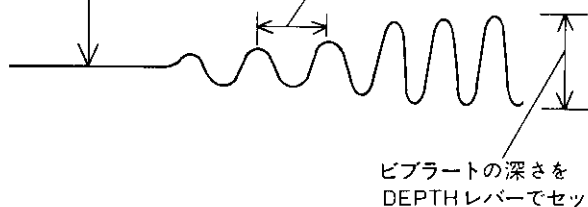
●SPEEDレバーでビブラートの速さをセット。

レバーを手前にセットするほど、速いビブラート効果が得られます。

デイレイビブラートでは、しばらくしてビブラート効果がかかります。

ビブラートがかかるまでの時間は
DELAYレバーでコントロール

ビブラートのはやさを
SPEEDレバーでセット



③ タッチ・ビブラート(上鍵盤のみ)

タッチ・ビブラートでは、TOUCHレバーでビブラートの深さを決め、鍵盤をおさえる指の横方向(左右)の動きによってビブラートをつくりだします。したがってビブラートの速さは、指の動く速さによって決まります。このタッチビブラートは、上鍵盤のアップブリセットの音色にもかかります。

なお、このとき、DELAYレバーまたはDEPTHレバーが少しでも入っているとタッチ・ビブラート効果はキャンセルされますのでご注意ください。また、タッチ・ビブラートにはSPEEDレバーの効果はかかりません。

NOTE

●以上3つのビブラート効果は、次のようにその優先順序が決まっています。タッチビブラート<ノーマルビブラート<デイレイビブラート。

アタックワウワウ

このレバーを入れますと、上鍵盤を押した瞬間、トーンレバーでセットした音色に“ワウワウ”といったファンタスティックな音の変化を与えることができます。

リピートスピード

アッパープリセットを除く上鍵盤の音色を、歯切れのよい断続音にすることができます。レバーを手前に押し下げるほど、短い音の断続になります。とくにトーンセクターのBANJOで効果的です。

ブライト

このレバーを手前にセットすると、上鍵盤のトーンセクターの音色を、明かるくきらびやかな感じにすることができます。ブライト効果は、音の変化の巾が大きいので少しずつ調整したほうがよいでしょう。

アタックレングス

上鍵盤のアタック音(4'、2 $\frac{2}{3}$ ')のための効果で、このATTACK LENGTHレバーを手前にセットするほど、アタック音の減衰時間は長くなります。

アッパー・パークツシブディケイ

上鍵盤のトーンレバーでセットした音を減衰音にすることができます。(ふつう、上鍵盤のトーンレバーの音は、鍵盤から指を離すまで同じ音が続く〈持続音〉です。)

レスポンス

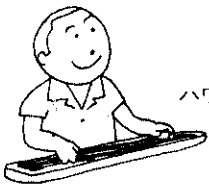
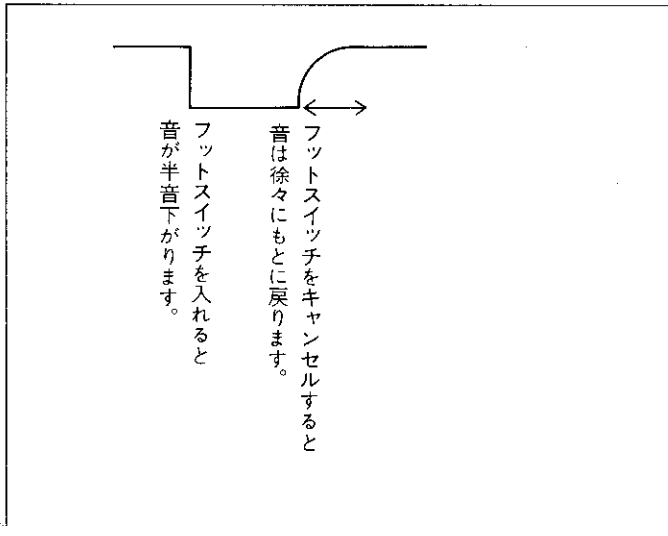
エレクトーンは、厳密にいうと、鍵盤を押してからゆるやかに音が出るようになっていきます。ですが、RESPONSEのタブレットを入れると、鍵盤を押してからの音の立ち上がり立ち下がりがはやくなります。レスポンス効果は、上鍵盤と下鍵盤のトーンレバーでセットした音色に対してかかります。

NOTE

サステインタブレットを入れるとアタック音は出ません。またレスポンス効果もきかなくなります。

グライド(フットスイッチ効果)

音を半音下げる効果で、トーンセレクターの音を除く、上・下・ペダル鍵盤のすべての音にかかります。このグライド効果を上手に利用して、ウエスタンギターやハワイアンギターの音をつくることもできます。かけかたは、GLIDEタブレットを入れ、演奏中、鍵盤を押したままフットスイッチを操作します。すると、その瞬間に音が半音下がり、フットスイッチをキャンセルすると、また音程が序々にもとに戻ります。



ハワイアンギターなどの音の表現に

サステイン

●SUSTAINレバーによって、上・下・ペダル鍵盤別々にサステインをかけることができます。レバーを右に回すほど、サステイン効果が大きくなります。トーンレバーでセットした音色には、2'~16'まですべての音にかかります。

●ニーレバー効果(上鍵盤・下鍵盤のみ)でもかけられます。サステインの長さをあらかじめサステインレバーによってセットし、UPPER(またはLOWER)SUSTAINのタブレットを入れておきます。このようにして、演奏中ニーレバーを入れますと、任意にサステイン効果をかけることができます。

ダンパー(フットスイッチ効果)

アッパープリセットの音(チャイムを除く)にフットスイッチでサステイン効果をかけるのがダンパーです。このタブレットを入れると、ハワイアンギター、ビブラホンの音の減衰が短くなり、さらにフットスイッチを入れると、ピアノ、ハーブシコードも含めてサステイン効果がかかります。

トレモロ/コーラス

上鍵盤と下鍵盤のトーンレバーでセットした音(つまりトーンセレクター、アッパープリセットの音を除く)にトレモロ効果をかけることができます。遅いトレモロ効果をかけたいときは、CHORUSタブレットのみを入れます。また、トレモロのスピードは、TREMOLLO SPEEDのつまみでコントロールすることができます。

●U&L FLUTEタブレットについて

上鍵盤、下鍵盤のフルートトーンのみでトレモロ効果をかけることができます。この効果は、UPPERおよびLOWERのタブレットよりも優先します。

ブリリアンス

音色全体をきらびやかで明かるい感じにします。レバーを下げるほど、その効果が大きくなります。ブリリアンスは上鍵盤と下鍵盤の音に対してかかります。

リバーブ

REVERBレバーは中央がノーマルのセット位置です。レバーを右に回すにつれて全体の残響効果が大きくなり、左に回すとその反対になります。上鍵盤、下鍵盤の音に対してかかります。

NOTE

グライドをかけている間は、上鍵盤にビブラート効果はかかりません。

音量コントロール・他

マニュアルバランス

上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスをとるレバーで、このレバーを右に回すほど、上鍵盤の音が強調されます。

マスターボリューム

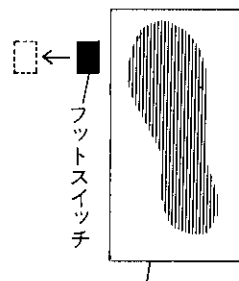
エレクトーン全体の音量をコントロールするツマミです。

アッパーオーケストラボリューム

トーンセクターでセットした音の、音量コントロールをするためのレバーです。このレバーがセットされていないと、オーケストラ系音色は出ません。

エクスプレッションペダル

演奏中の音に強弱変化をつけるためのもので、奥に踏み込むほど音量が大きくなります。

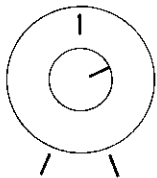
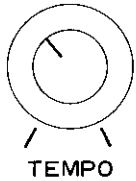
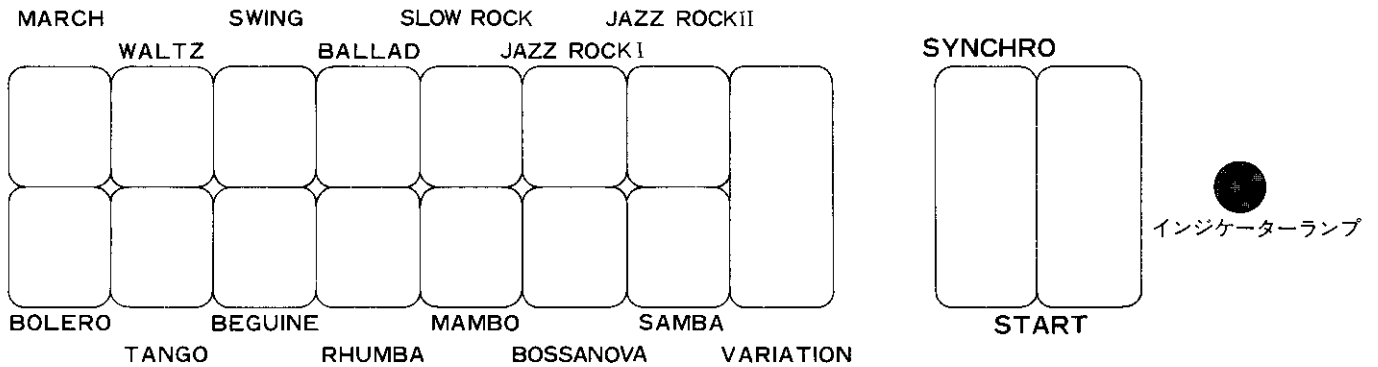


エクスプレッションペダル

フットスイッチ

エクスプレッションペダルの左奥にあり、操作は、足先で左に動かします。

オートリズム



VOLUME — ● — BALANCE

オートリズム(自動リズム伴奏)のリズムパターンには全部で14種類があり、シンバル、ドラム、ボンゴなどの楽器音で歯切れのよいリズムをきざみます。これにさらにリズムバリエーションを加えれば、何通りものリズムをつくりだすことができます。リズムセレクターを必要な数だけ押し、同時に指をはなしてください。

オートリズムのならしかた

① スタートスイッチ

右のスタートスイッチをONにしておくと、リズムを自動的に第1拍目からスタートさせることができます。

② シンクロスタート・スイッチ

ONにしておくと、下鍵盤またはペダル鍵盤をおさえた時点でリズムがスタートします。

③ リズムセレクター

好きなリズムをセットしてください。演奏の途中で他のリズムに変えたいときは、次のリズムセレクターを押せば自動的に前のリズムがキャンセルされます。

④ テンポインジケータランプ

ランプに赤い光のついたときが各リズムの第1拍目です。

⑤ テンポコントロール

リズムの速さを調節できます。

⑥ オートリズムバランス

ツマミを右に回すとシンバル系の音が強調され、左に回すとその逆になってバスドラムなどの太鼓の音が強調されます。

⑦ オートリズムボリューム

鍵盤の音とリズム音とのボリュームのバランスをとることができます。なお、オートリズムの音量は、エクスプレッションペダルによっても変化がつけられます。

オートベースコード

下鍵盤のキーをおさえるだけで、下鍵盤とペダル鍵盤の音の和音伴奏がつくれ、さらにオートリズムと連動して自動的にきざまれる「自動伴奏」効果です。ただし、この自動伴奏の下鍵盤の伴奏は、下鍵盤用のトーンレバーの右側4つ(PIANO I・II、GUITAR、HARPSICHORD)の音できざまれるので、あらかじめこれらのトーンレバーをセットしておく必要があります。(左側4つのトーンレバー、FLUTE8'・4'・2 $\frac{3}{8}$ '・2'の音は自動伴奏にはなりません、持続音としてバックに流すのも効果的です)

オートベースコードのセットのしかた

●左手の指1本でリズム伴奏をつけたいとき。

①まずオートリズムでお好きなリズムをセットしておきます。

②次にSINGLE FINGER CHORDのボタンを押します。

あとは下鍵盤の音をひとつおさえるだけで、その音を基音にしたメジャーコードの和音伴奏がセットしたオートリズムにあわせてきざまれます。和音は、押した鍵盤の音域と同じ音域のものが出ます。

おさえた鍵盤と伴奏和音との関係

中央下 (C₁)

下鍵盤のこの音をおさえると

自動伴奏は次のように…

下鍵盤の音

ペダル鍵盤の音

コードはこのようになります。

※この図は、下鍵盤の中央音域をおさえたときの例です。

③この伴奏和音をセブンスコードにしたいときは、下鍵盤をおさえながらペダル鍵盤の白鍵をどれでもひとつ踏むとコードが変わります。マイナーコードにしたい場合は、ペダル鍵盤の黒鍵を踏みます。

④また、さらにMEMORYボタンを押しておくとも自動伴奏をメモリーすることができます。この場合、伴奏のコードが変わるときだけ、そのコードの基音となる鍵盤を押せばよいわけです。

●おさえたとおりの和音でリズム伴奏をつけたいとき。

オートリズムをセットし、次にFINGERED CHORDのボタンを押してください。このようにして下鍵盤で和音をおさえると、その和音の音でリズム伴奏がきざまれます。また、MEMORYボタンを押しておけばベース音とリズムをメモリーすることができます。

●下鍵盤の音とペダル鍵盤の音に別々に自動伴奏をかけたいとき。

CUSTOMのボタンを押してください。このボタンを押しておく、下鍵盤の音は、おさえたとおりの和音で伴奏がきざまれ、ペダル鍵盤の音については踏んだ音を基音にしたコードの伴奏が自動的にきざまれます。この場合、ペダル鍵盤の音は、下鍵盤でおさえた音がメジャーのときにはメジャーに、マイナーのときはマイナーにと変化します。MEMORYボタンを同時に押しておくともベース音をメモリーすることもできます。また、このとき、左手の伴奏を自動伴奏ではなく自由なパターンにしたいときは、下鍵盤のトーンレバーのFLUTE 8'・4'・2 $\frac{3}{8}$ '・2'をセットして自由に弾くことができます。

●オートリズムとの連動をキャンセルしたいとき。

CONSTANTのボタンを押してください。CONSTANTは、SINGLE FINGER CHORDまたはFINGERED CHORDとあわせてお使いいただくボタンで、オートリズムとの連動をキャンセルするはたらきをします。この場合、下鍵盤の音、ペダル鍵盤の音、両方とも持続音となります。

NOTE

●オートリズムがシンクロススタートでセットされている場合は、下鍵盤を離すと、オートベース/コード、オートリズムともにストップし、再び下鍵盤(CUSTOM/ABCの場合はペダル鍵盤でも可)を押すとスタートします。

●ベース音に変化をつけたいとき。
自動伴奏のとき、BASS VARIATIONのボタンをNORMALにセットしておく、ベース音はリズムの種類によってあらかじめセットされたものが出てきます。このベース音は、BASS

VARIATIONボタンの1または2をセットすることによって、次の例のようにペダル鍵盤の音(ベース音)がウォーキングコードの感じになります。

例1. SWINGのベース音の変化(Cコードの場合)

	このボタンをセットすると	ベース音は
1	リズムセレクター SWING ベースバリエーション NORMAL	
2	リズムセレクター SWING ベースバリエーション II	
3	リズムセレクター SWING リズムバリエーション ベースバリエーション I	

例2. JAZZ ROCK Iのベース音の変化(Cコードの場合)

1	リズムセレクター JAZZ ROCK I ベースバリエーション NORMAL	
2	リズムセレクター JAZZ ROCK I ベースバリエーション I	
3	リズムセレクター JAZZ ROCK I ベースバリエーション II	

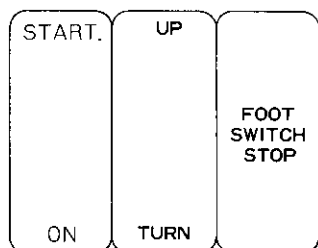
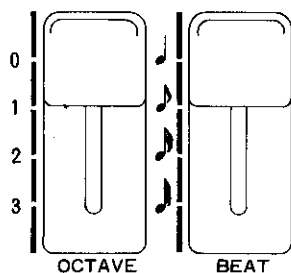
●自動伴奏を使わないふつうの演奏をするときは、
かならずオートベース/コードのNORMALボタンを押しておいてください。このボタンを押しておかないとペダル鍵盤の音は出ません。

●フットスイッチについて。
リズムストップを入れておいて演奏中、足先でフットスイッ

チを操作すると自動伴奏がストップします。ですがもう一度フットスイッチを操作すると、再びもとの自動伴奏がスタートします。

オートアルペジオ

アルペジオは、同じ音をくり返して演奏するという、ひとつの分散和音的装飾音効果です。オートアルペジオの演奏方法には、オートリズムのみと連動させる方法と、これにさらにオートベース/コードを加えて演奏する方法の2種類があります。演奏にあたっては次の手順を追ってください。また、オートアルペジオでは、手は原則的におさえつづけるという弾きかたをします。



まず、オートリズムをセットします。

リズムのセットをします。このときSYNCHROスタートスイッチを入れておきます。これは、オートリズムとオートアルペジオを同時にスタートさせるためです。SYNCHROスタートスイッチを入れない場合は、<アルペジオをスタートさせるタイミングを、指でオートリズムのテンポの第1拍目にあわせる>という方法になります。

また、アルペジオ効果をメモリーさせたい場合は、オートベースコードのSINGLE FINGER CHORDとMEMORYのボタンを押しておきます。

NOTE

●オートベースコードとアルペジオを同時に入れると、下鍵盤の音はオートアルペジオが優先します。

次にオートアルペジオをセットします。

①オートアルペジオのSTARTタブレットをONにします。

このようにして下鍵盤をおさえると、オートアルペジオがスタートします。下鍵盤のキーを同時に2つ以上おさえた場合は、低いキーの音から先に単音でくり返すアルペジオになります。なお、オートアルペジオのテンポは、オートリズムのテンポに連動します。

〈鍵盤を2つ以上おさえた場合のアルペジオ〉

キーをおさえる順番(例)



出てくる音の順番
(くり返します)



条件：BEATレバー J

②アルペジオを何オクターブの範囲にかけるか決めます。

次にOCTAVEレバーで、アルペジオ効果にかける範囲(オクターブ)をセットします。レバー位置とアルペジオのかかる音域との関係は次のようになります。

●レバー位置0のとき。

アルペジオは同じ音域内のくり返しになります。

(例)



●レバー位置1のとき。

アルペジオは、弾いた音の上1オクターブまでかかります。

●レバー位置2のとき。

アルペジオは、弾いた音の上2オクターブまでかかります。

●レバー位置3のとき。

アルペジオは、弾いた音の上3オクターブまでかかります。

(例)



③UPにするかTURNにするか決めます。

UP・TURNのタブレットがそのまま(UP)のとき、アルペジオ効果はOCTAVEレバーでセットした音域まで下から上へとかかります。タブレットをTURNにセットすると、アルペジオは、OCTAVEレバーでセットした最上音域まで上り、そのあと、もとの音域までまたもどってきます。

(例)OCTAVEレバーを1にセットした場合のUPとTURNのアルペジオ

タブレット・UPのとき



タブレット・TURNのとき



④BEATのセットをします。

同じテンポのアルペジオでも、ビートを変えることによってかなりイメージが変わります。BEATレバーでアルペジオをきざむ基本となる音の長さをセットすることができます。

④FOOT SWITCH STOPタブレットについて。

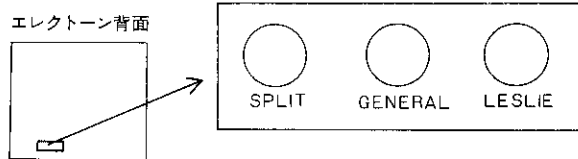
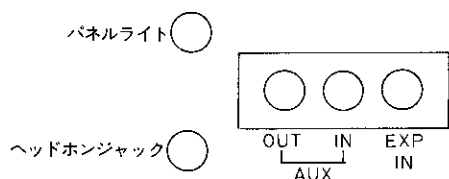
このタブレットを入れておいてフットスイッチを操作するとアルペジオ効果がキャンセルされます。フットスイッチを再び操作しますと、またもとのアルペジオ効果がかかります。

NOTE

●オートアルペジオ効果では、アルペジオをきざむ音色は自動的に減衰音となります。

●オートアルペジオは、ここに記譜されたもの(例)だけではなく、左手でおさえた音の変化によってあらゆる種類がつけられます。

付属端子・音のエチケット



エレクトーン棚板下の付属端子

●EXP-IN(EXP連動入力)端子

リズムボックス、シンセサイザーなどと接続しますと、エレクトーンのエクスプレッションペダルで音量変化をつけながら演奏することができます。

(入力インピーダンス47K Ω 、最大入力レベル-19dBm)

●AUX-IN(ライン入力)端子

ステレオやテープレコーダーを接続し、レコードやテープの曲をエレクトーンのスピーカーから出して共演することができます。

(入力インピーダンス27K Ω 、最大入力レベル-10dBm)

●AUX-OUT(ライン出力)端子

テープレコーダーに録音したり、他のアンプと接続して音出しする場合に利用します。

(出力インピーダンス470K Ω 、最大出力レベル-5dBm)

●パネル・ライトスイッチ

このスイッチを入れると、エレクトーンの鍵盤部を照らすライトが点灯します。暗い場内でも、確かで、ムードある演奏ができます。また、スイッチは手前に入れると明るく、奥に入れると暗くなります。

●ヘッドホン・ジャック

夜間の練習などには、エチケットの上からもぜひヘッドホンをご利用ください。

音のエチケット

私たちの日常生活と音とは切ってもきれない関係にあります。機械のガーンという音も、エレクトーンの美しい音色もみんな音の仲間。でも、私たちはひとりで暮らしているわけではありません。家族や隣人どうし、みんな助けあって生きているのです。ですから音に関しても、おたがいに譲りあい、やさしい心づかいを示してあげることがたいせつです。美しい音楽を愛すると同時に、住みよい環境を私たち自身の手でつくりあげてまいりましょう。

エレクトーンは、ヘッドホンが使えます。

ヤマハエレクトーンには、どの機種にもヘッドホンジャックがついており、ここからヘッドホンに接続することができます。とくに楽器専用に開発された、ヤマハ・オルソダイナミックヘッドホン(HP-50A)は、かろやかな装着感と、クリアな音質が特長。エレクトーン本来の音色を存分にお楽しみいただけます。

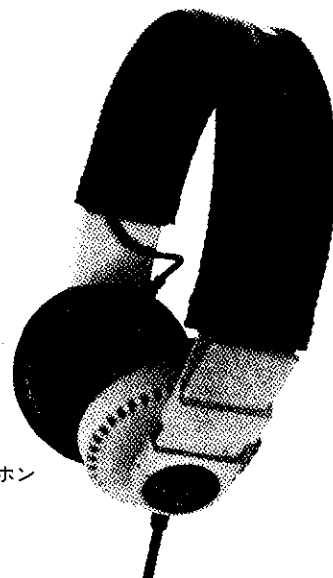
トーンキャビネットコネクター

演奏会、発表会などの際に、トーンキャビネットを持続すれば、よりダイナミックなサウンドが得られます。

SPLIT：電子トレモロ効果内蔵の新型トーンキャビネットに接続でき、上鍵盤、下鍵盤のトーンレバーの音色にそれぞれ独立してトレモロ/コーラス効果をかけることができます。

GENERAL：R-60B型等のトレモロつきトーンキャビネットに接続でき、アッパーのタブレットをON(ROTARY側に入れる)と、上下鍵盤すべての音色にトレモロ効果をかけることができます。

LESLIE：レスリースピーカー(700型および710型)に直接、接続できます。

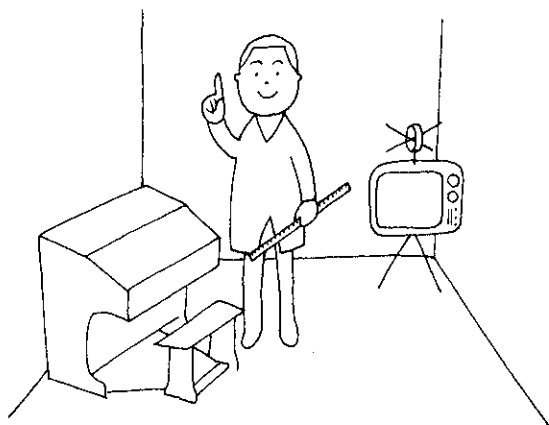


静かさへの思いやりを
楽器専用(モノラル)
オルソダイナミックヘッドホン
HP-50A 5,000円

楽器のお手入れ法

一般的に他の楽器、例えばピアノとかオルガンと同じ取り扱いをしていただければ、ほとんど問題はありませんが、特に電気部品を使用していますから、次の点にご注意ください。

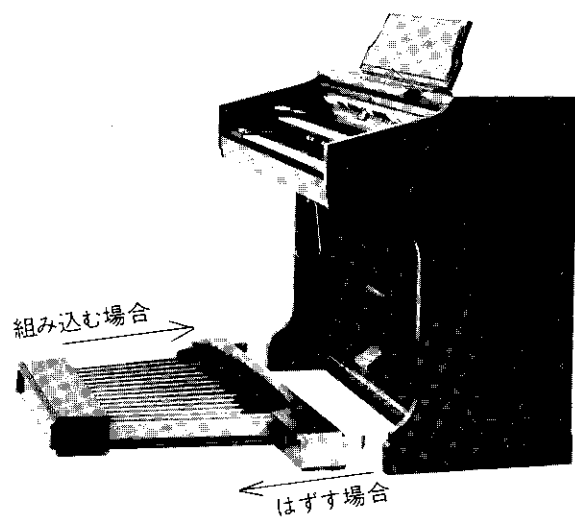
1. 使用後は電源スイッチを切り忘れないようにしてください。
2. 日光の直射する所に置きますと色があせたり、木材の接着部分がはがれる恐れがありますからなるべく避けてください。
3. その他、湿気の多い所、暖房装置の近くは避けてください。
4. 楽器の上にものをのせないでください。
5. エレクトーン鍵盤クリーニングには、水がたれない程度に絞った中性洗剤等で拭き取って頂き、シンナーやアルコール等の薬品は絶対に使用しないで下さい。
6. 譜面板が取り外し式になっておりますので、キズ付きに充分ご注意下さい。
7. テレビやラジオをエレクトーンに近接してご使用の時、テレビやラジオに雑音が入る等の影響を及ぼすことがあります。このような場合は、エレクトーンから1m位離してご使用ください。(エレクトーンに電気が入っていないときは影響しません)
8. 外装の塗剤はビニールと化学反応をおこしますので、ビニール製品をのせないようにしてください。



ペダル鍵盤の取扱い方法

ペダル鍵盤はユニットになっており、取りはずすことができます。取りはずし、または取り付けの際には、次の様な方法で行ってください。

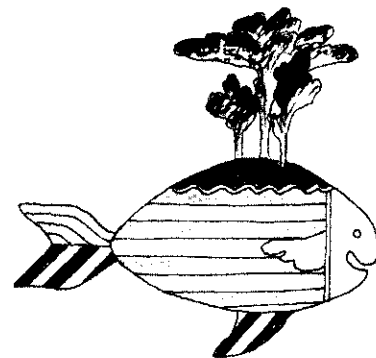
1. かならず2人で持つようにして決して無理な力をかけないようにしてください。
2. 取り付けの際は、そのまま押し込むのではなく、下図の矢印の方向に少し持ち上げて、はめ込むようにしてください。
3. 取りはずしの際には、最初少し持ち上げてから引き出すようにします。
4. 取り付け、取りはずしは、本体にキズをつけない様にご注意下さい。



次の現象は故障ではありません。

スイッチを入れた瞬間、ボンと音がする	メインアンプ内部に電気が流れたため	エレクトーンが作動する証拠です。ご心配ありません。
ペダル鍵盤は同時に2音を押しても1音しか出ない	ペダルサステインをかけたときに、前の音と後の音がまざってきた音にならないよう、後の音を押した瞬間に前の音が消えるしくみになっています。	同時に2音を押すと高音の方のみ音が出ます(高音優先)。
音が割れる(共鳴する、あるいはビビる)	エレクトーンの音は持続音ですから、周囲の戸棚、窓ガラスその他の器物に共鳴することが多くあります。	①音量を小さくする ②共鳴物を取り除く
時々雑音が入る(ガリツとかポツンという雑音)	①家庭の電気冷蔵庫、洗濯機など電気器具の電源入、切り時 ②市街地のネオンサインの故障、電気ドリルなど	①原因と思われる機器からなるべく離れたコンセントを使う ②原因不明あるいはご不審の点は日本楽器各支店エレクトーン技術係までご相談ください。
ラジオやテレビ等の電波が入るときがある	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるとき	どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは日本楽器各支店エレクトーン技術係までご相談ください。
トーンレバーによって、鍵盤位置による音量のバラツキがある	一般に電子楽器では音色を変えるという本質的な要素を持つため、音色による各鍵盤の音量バラツキをなくすことは非常に困難です。エレクトーンではどの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されています。	音の強さや音色はエレクトーンの設置場所の状態や聞く位置などによって大きく異なることがあるので、どうしても気になる時はお求めの楽器店あるいは日本楽器各支店エレクトーン技術係までご相談ください。
ヘッドホンで練習のとき、ブーンという電気の雑音(ハム)が気になる	本体のスピーカーで音を出している時はあまり気にならないのに、ヘッドホンを使って練習する際ブーンという電気のうなり雑音(ハム)が気になることがあります。	エレクトーン本体の電源プラグをコンセントへ逆にさしこんでみてください。

<p>ペダル鍵盤ではピッチが高く、上鍵盤高音部では低く感じる</p>	<p>特にピアノと比較した場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑で(特に高音、低音では)実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律するので、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。</p>	
<p>電源を入れたまま振動やショックを与えると雑音が出る</p>	<p>内蔵のリバブレーション装置に柔らかいスプリングを使用しているため、振動が伝わるため</p>	<p>①使用中は、大きな振動やショックを与えないようにしてください。 ②エレクトーンはぐらつかないように設置してください。 ③移動する時は、電源スイッチを切るか、リバブレーションを左に回してリバブがかからないようにしてから移動してください。</p>
<p>上鍵盤の音を8音おさえると、下鍵盤の音は3音しか出ない</p>	<p>このエレクトーンは、トーンレバー、トーンセクター、アッパープリセットのどの音色を使っても、上、下鍵盤あわせて同時に発音する音は11音までです。</p>	
<p>レスポンスを入れると、音が出る時、プツという音が入る</p>	<p>音の立ち上がり時間が早くなるため、その切りかわり時点で発生するものです。</p>	<p>この音はクリックと呼ばれ、このような効果をねらったものです。スローテンポでムーディーな曲には合いませんが、パンチのきいた曲には貴重なものです。</p>
<p>ヘッドホンを使うとトレモロ効果がかからない</p>	<p>トレモロ効果は、スピーカーの前にあるドラムを回転させて音を“ふりまき”、独特の雰囲気を作り出すものですが、ヘッドホンを使った場合はスピーカーへの信号(楽音)が遮断されてしまうためにトレモロ効果のない音になります。</p>	
<p>上鍵盤と下鍵盤の同じ音程のキーを同時におすとうなりが聞こえる</p>	<p>このエレクトーンは、最初から下鍵盤を基準にして、上鍵盤では+1.6セント、ペダル鍵盤では1.6セントづつ音程をずらして自然なうなりを生じさせています。鍵盤の位置によってもうなりの度合いは変わります。</p>	
<p>トレモロを作動した時に作動音が出る</p>	<p>内部に組み込まれているトレモロ用回転ドラム</p>	<p>回転部分に精密仕上げを施し、演奏上には支障のない程度の大きさに抑えています。</p>



保証とアフターサービス

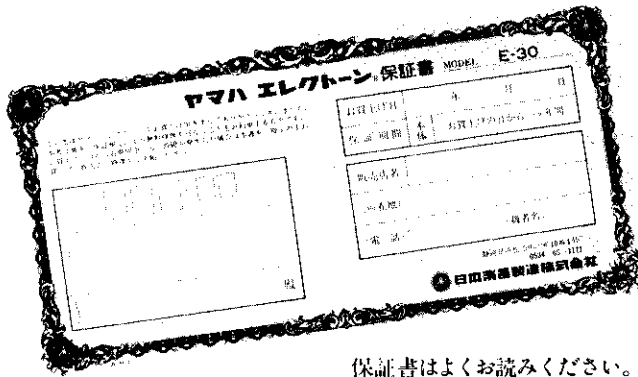
保証

エレクトーンの場合は、保証書の裏面に記載の規定によりご購入から満1カ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内のみ有効といたします。

保証書

エレクトーン納入の際、保証書もお渡し致しますので大切に保管下さる様お願い致します。

又、納入調整サービスの際には納入調整者が保証書内に必要事項記入の上発行いたしますので記載事項をご確認下さい。



保証書はよくお読みください。

保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社がエレクトーンをご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う1カ年間の無償サービスをお約束申しあげられるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただきますこととなります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮の上で保管してください。(エレクトーンのイスの裏にあります保証書ホルダーをご利用ください)また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別やサービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

納入調整サービス

エレクトーンをお納めさせて頂きますと、販売店からエレクトーンのご説明かたがたお納めしたエレクトーンの調子を最良状態にするよう点検調整にお伺いいたします。その際、納入調整サービスカードを提示いたしますので、カード裏面の点検調整事項について、ご確認・ご捺印のうえ、カードを納入調整者にお渡しください。お求めのエレクトーンについてご不明の点およびお聞きになりたい点がございますらその節にお申しつけ下さるようお願い申し上げます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合にはヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整修理にお伺いします。
2. 保証書は、サービスにお伺いした時に今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。お預りした保証書は、弊社支店に送られ、記録した後に各支店から直接お客さまにご返送申し上げます。この間、約1週間～10日間程度を要しますがご心配なくお待ちくださるようお願い申し上げます。
3. 遠方に移転される場合は、事前にお買上げ楽器店あるいは弊社支店にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよう手続きいたします。

保証期間後のサービス

満1カ年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。また、修理可能期間は10年となっております。尚、補修用性能部品(製品本来の機能を維持する為に必要な部品)の最低保有期間は8年となっております。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転先の楽器店をご紹介します。

サービスのご依頼

●ご依頼の前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめ下さい。
2. 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうかの確認をさせていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いします。
(20~21ページの「このような現象は故障ではありません」参照)

●エレクトーンの様子は詳しくお知らせ下さい。

1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方に様子をお聞かせ願えば、あらかじめ用意する部品などの見当が付き、スムーズにいきます。
2. 時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせ下さい。たとえば、●夜だけ音が小さい ●ある時間だけ雑音が出る ●エレクトーンの音を出さなくても、スイッチを入れるだけで雑音が出るなどの場合です。
3. エレクトーンの種類など、サービスご依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせ下さい。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただくために是非お願いいたします。

●これだけはお知らせ下さい。

ご住所、お名前、ご連絡先、ご購入店、お買上げ年月日、機種名(モデル名)……保証書に記載されております。
症状……なるべく正確に。

サービスのお約束について

1. お仕事の関係で、昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。
2. 万一お約束した日時がご都合の悪い時には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡下さい。
3. お店にサービス依頼されたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でも右記お問い合わせ先にご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

ヤマハのサービス網

全国のヤマハ特約楽器店と下記日本楽器支店が責任をもってアフターサービスを行なっております。

●お問い合わせ先

本 社／浜松市中沢町10-1・電音サービス課
☎(0534)65-1111

北海道支店／札幌市中央区南十条西1-4・電音サービス係
☎(011)512-6111

仙台支店／仙台市原町南目薬師堂北2-1・電音サービス係
☎(0222)95-6111

千葉支店／千葉市千葉港2-1千葉中央コミュニティセンター内・電音サービス係 ☎(0472)47-6611

関東支店／高崎市歌川町8番地高崎センター内・電音サービス係 ☎(0273)27-3366

東京支店／東京都中央区銀座7-9-18パールビル内・電音サービス係 ☎(03)572-3111

横浜支店／横浜市中区本町6-61-1・電音サービス係
☎(045)212-3111

浜松支店／浜松市幸町3丁目5-8・電音サービス係
☎(0534)74-0311

北陸支店／金沢市泉本町7-7・電音サービス係
☎(0762)43-6111

名古屋支店／名古屋市中区錦1-18-28・電音サービス係
☎(052)201-5141

大阪支店／大阪府吹田市新芦屋下1-16・電音サービス係
☎(06)877-5151

神戸支店／神戸市灘合区浜辺通り6丁目1-36・電音サービス係 ☎(078)232-1111

広島支店／広島市安佐南区祇園町西原862・電音サービス係
☎(08287)4-3787

四国支店／高松市西宝町2丁目6-44・電音サービス係
☎(0878)33-2233

九州支店／福岡市博多区博多駅前2-11-4・電音サービス係
☎(092)472-2151

仕様と音域表

●鍵盤

上鍵盤：61鍵、5オクターブ(C～C4)

下鍵盤：61鍵、5オクターブ(C～C4)

ペダル鍵盤：25鍵、2オクターブ(C1～C)

●トーンレバー

上鍵盤：フルート16'・8'・5 $\frac{1}{3}$ '・4'・2 $\frac{2}{3}$ '・2'

ディアパゾン8'・バスーン16'・プラス8'・オーボエ8'・

キヌラ8'・ストリング8'・4'

アタック音=4'・2 $\frac{2}{3}$ '

アッププリセット=フルアンサンブル、ピアノ、
ハーブシコード、ハワイアンギター、チャイム、ピ
ブラフォン

下鍵盤：フルート8'・4'・2 $\frac{2}{3}$ '・2'、ディアパゾン8'、ホルン8'、

チェロ8'、チェロ4'(ABCトーン=ピアノ I、ピアノ II、
ギター、ハーブシコード)

ペダル鍵盤：バス16'・8'、チューバ16'、ストリングバス、バス
ギター

●トーンセレクター

アンサンブル、トロンボーン、トランペット、サクソフォン、
クラリネット、ギター、バンジョー、アコーディオン、ワウ
ブラス、キャンセル

●音色プリセットピストン

プリセットピストン①②③

ピストンキャンセル

●コントロール(エフェクト)レバーおよびツマミ

ブリリアンス、アタックレングス、アタックワウワウ、リピート
スピード、ブライツ、ビブラート=タッチ・ディレイ・デプ
ス・スピード、リバーブ、ペダルサステイン、アップサス
テイン、ローサステイン、トレモロスピード

●タブレット

アップサステイン、ローサステイン、アッププリセッ
トキャンセル、アップパーカッションディケイ、レスポンス、
グライド、ダンパー、リズムストップ、コーラス、トレモロ、
メインローロータリー、メインアップロータリー、メイ
ンアップ&ローフルートロータリー

●オートリズム

リズムセレクター：マーチ・ワルツ・スイング・バラード・
スローロック・ジャズロック I・ジャズロック II・ボレロ・タ
ンゴ・ビギン・ルンバ・マンボ・ボサノバ・サンバ、バリエ
ーション、リズムスタート、シンクロスタート、テンポイン
ジケータランプ、テンポコントロール、オートリズムボリ
ューム、オートリズムバランス

●オートベース/コード

セレクトボタン：ノーマル・シングルフィンガーコード・フ
ィングードコード・カスタム・コンスタント・メモリー、ベ
ースバリエーション1・2・ノーマル

●オートアルペジオ

タブレット：スタート・アップ&ターン・フットスイッチス
トップ、レバー：オクターブ・ビート、インジケータランプ

●その他

マスターボリューム、アップオーケストラボリューム、マ
ニュアルバランス、エクスプレッションペダル、フットスイ
ッチ、ニーレバー、パワースイッチ、EXP-INジャック、AUX-INジャ
ック、AUX-OUTジャック、ヘッドホンジャック、パネルライトスイ
ッチ、トーンキャビネットコネクター：スプリット、ジェネラル、
レスリー

●アンプ

メインアンプ60W、トレモロアンプ60W

●スピーカー

メインスピーカー：38cm、20cm、5cm各1

トレモロスピーカー：16cm

●定格電圧100V、定格消費電力220W、定格周波数50/60Hz

●寸法

間口130cm、奥行74cm、高さ107cm、重量124kg

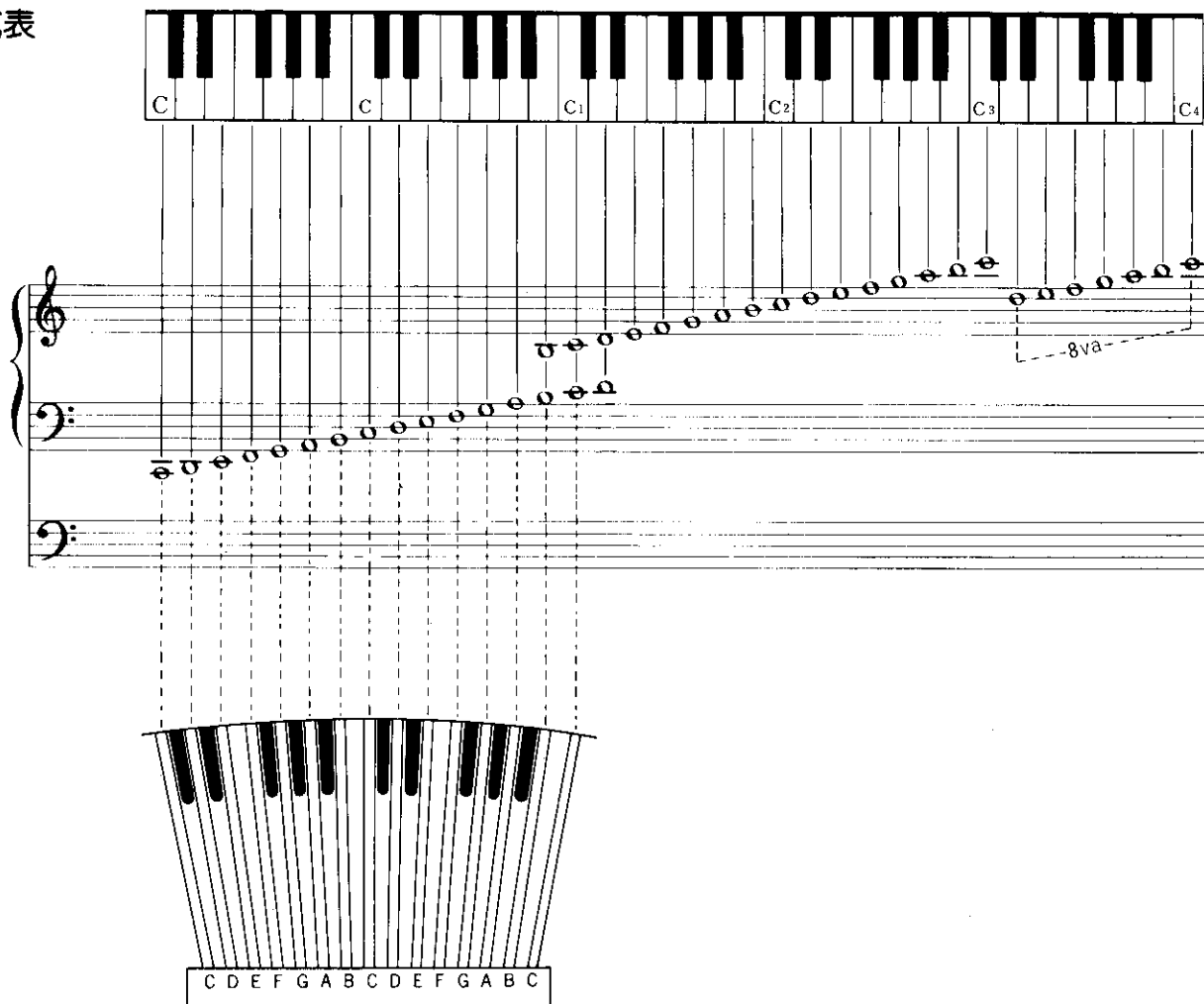
(椅子別)、蓋・スライド式

●外装

アメリカンウォルナット

●仕様は品質向上のため、予告なく変更する場合があります。

音域表



●ペダル鍵盤の16'の音は、記載されているよりも1オクターブ低い音です。

●発音数：ヤマハエレクトーンE-30は、上下鍵盤あわせて、鍵盤を押した順に計11音まで音ができます。

本社・工場／〒430 浜松市中沢町10-1

TEL. 0534(65)1111

東京支店／〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内

TEL. 03(572)3111

銀座店／〒104 東京都中央区銀座7-9-14

TEL. 03(572)3131

渋谷店／〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-7

TEL. 03(476)5441

池袋店／〒171 東京都豊島区南池袋1-24-2

TEL. 03(981)5271

横浜支店／〒231 横浜市中区本町6-61-1

TEL. 045(212)3111

千葉支店／〒280 千葉市千葉港2-1/千葉中央コミュニティセンター内

TEL. 0472(47)6611

関東支店／〒370 高崎市歌川町8番地/高崎センター内

TEL. 0273(27)3366

大阪支店／〒564 吹田市新芦屋下1-16

TEL. 06(877)5151

心斎橋店／〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39

TEL. 06(211)8331

神戸支店／〒651 神戸市葺合区浜辺通6丁目1-36

TEL. 078(232)1111

四国支店／〒760 高松市西宝町2丁目6-44

TEL. 0878(33)2233

名古屋支店／〒460 名古屋市中区錦1-18-28

TEL. 052(201)5141

北陸支店／〒921 金沢市泉本町7-7

TEL. 0762(43)6111

九州支店／〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

TEL. 092(472)2151

福岡店／〒810 福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内

TEL. 092(721)7621

魚町店／〒802 北九州市小倉区魚町1-1-1

TEL. 093(531)4331

北海道支店／〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター内

TEL. 011(512)6111

仙台支店／〒983 仙台市原町南目薬師堂北2-1

TEL. 0222(95)6111

広島支店／〒730 広島市中区紙屋町1-1-18

TEL. 0822(48)4511

浜松支店／〒430 浜松市田町32

TEL. 0534(54)4115

エレクトーン®は当社の登録商標です。

